

理科って楽しいね 人と化学をむすぶ会



化学物質は危険、天然と名がつけば安全・安心と思っ
ていませんか。身の回りのものはすべて化学物質からで
きており、上手に使えば安全で有用です。実験を通して
子どもたちに化学の使い方と楽しさを教える活動を続け
ている登録グループにお話をお聞きしました。

★会の始まりを教えてください

化学会社出身者や環境問題に関
心を持つ仲間が集まり、化学物質を
きちんと理解してもらいたい、と結成
しました。

当初は大人向け講座中心で、参
加者のほとんどが食の安全に関心
のある主婦でした。最近子ども対象
の実験依頼が増えています。

★なぜ化学の実験なのでしょう

子どもが最初に出会う理科は生物
です。私たちの学生時代、化学は暗
記するものというイメージが強い教科
でした。テレビなどで理科実験が人
気ですが、物理の実験に比べ、薬品
を使用する化学実験は少ないよう
です。実験し、観察を通して化学に対
する興味を持ってほしいのです。

★実験中、心がけていることは

「まず安全」が共通の認識です。一
人で対応する子どもたちの人数にも
配慮しています。

★一番楽しいときはいつですか

講座が終わった瞬間です。アイデ
アが形になり、楽しんでもらえた喜
びを感じた時です。子どもたちからび
くりするような質問が飛び出し、こちら
が教わることもあります。

★会のモットーと今後

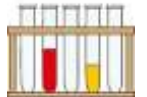
計画をかつちり立て、情報を共有し
ながら、全員が責任を持ちたいと考
えています。 便利な社会に慣れると
昔には戻れません。化学物質に絶対
安全も絶対危険もありえません。一般
の方が化学物質と仲良く正しく付き
合えるように、種を蒔いていきたいと

思っています。

活動も10年になり、今後は、さら
にレベルを上げた内容をめざしてい
ます。発展がなければ、現状維持は退
行と同じですから。

「高校時代、初めての物理の授業
で黒い箱を渡され中身を考えるよう
言われました。重さを測ったり傾けたり、
観察し考えることで見えるものがある
と学びました。その教師は摩擦のな
いレール作りや重力加速度の実験な
どを行い、理科の楽しさを知りました」
とは高校入学まで理科が苦手だった
というメンバーの体験談です。

会の実験に出会った子どもたち
の中に、いつかノーベル化学賞受賞
者が誕生するかも知れませんね。



おもしろ環境化学実験

北区青少協藤原台支部おもしろ環境理科実験教室にて

小学生向けの出前講座を見学し
ました。この日は3つの実験です。講
座を心待ちにしている子どもたちが
多いそうです。楽しい実験も危険な
場合があることを説明され、ゴーグル
をつけて真剣な表情で始めました。

二酸化炭素を知ろう

空気についてお話を聞きました。
酸素と二酸化炭素の働きを学んだ
後、二酸化炭素の入った入れ物の中
でプカプカ浮かぶシャボン玉を確認
し、理由をみんなで考えました。



花火の色の秘密

ある種の金属は炎の中で加熱す
ると特有の色を出します(炎色反応)。
花火の色はこの現象を利用します。

可視光で炎色反応を示さないアル
ミの皿にサンプルとエタノールなど
を入れて火をつけて色を見ました。



入浴剤を作ってみよう

温泉の成分とはたらきについて学
び、入浴剤を作ります。

すり鉢で材料をひとつずつすりつ
ぶして合わせ、香料を加え、固めて
型抜きをします。完成した入浴剤は
持ち帰りました。

【取材を終えて】 実験に歓声を上げる子どもたちを講師の方々
が優しいまなざしで見守っ
ていらっしゃるのが印象的でした。子どもたちに一番人気があっ
たのは入浴剤作りです。実際
に手を使って形にし、家族へのおみやげになったのがうれし
かったようです。

